

大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

荒俣 宏 1

韋編三絶——読書と本づくりの過去と未来

黒田拓也 8

中国市場と双方向の連携をめざして——第二回北京国際図書館展訪問記

後藤健介 10

ソウルで日韓の本が出会う——ソウル国際図書館展の韓国大学出版部ブース

上村和馬 12

未来の愛書家を育てる——第一七回モスクワ国際ノン／フィクション図書館展

笹岡五郎 14

第三三回日本・韓国合同セミナーから見えてくるもの

*連載

中垣信夫 18

命の形一形の命 No.106

大学出版部ニュース 20

利以聽乃為之勢以佐其外勢者因

和者情曰主孰有道將聽吾言用之

以之者必死去之者必死去之者必死

去之者必死去之者必死去之者必死

去之者必死去之者必死去之者必死

去之者必死去之者必死去之者必死

No.105
2016.2
冬

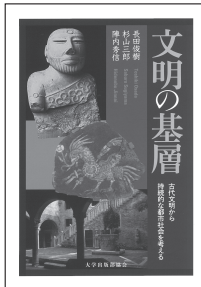


一般社団法人
大学出版部協会

大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2015年7月刊】

2014年5月に千代田区立日比谷図書文化館で開催された市民シンポジウム「文明の基層」(総合地球環境学研究所・京都大学学術出版会・大学出版部協会 主催／活字文化推進会議 後援)の内容をブックレット化しました。



長田俊樹 おさだとしき(総合地球環境学研究所名誉教授、神戸市外国語大学客員教授)
杉山三郎 すぎやまさぶろう(愛知県立大学大学院特任教授、アリゾナ州立大学人類学学部教授)
陣内秀信 じんないひでのぶ(法政大学デザイン工学部教授)

文明の基層

古代文明から持続的な都市社会を考える

A5判・80頁／定価(本体1,200円＋税) ISBN978-4-13-003152-3

古代都市のイメージは大きく変わりつつある。インダス文明の諸都市のゆるやかなネットワーク、中米の古代最大都市テオティワカンでの新しい発見。人はなぜ都市を作ってきたのか、その歴史的基層を中世ヨーロッパのヴェネツィアと比較しながら、改めて都市の魅力と未来への可能性を探る。大学出版部協会ブックレット第3弾。

〈主要目次〉

第一章 インダス文明：ネットワーク都市——中央集権的文明観を覆す(長田俊樹)

「大河文明」は本当か?—広大なインダス文明／インダス文字とインダス印章／草原の遺跡、海岸沿いの遺跡—大河から離れて／砂漠の遺跡の謎／「城塞」と「パスポート」—都市ネットワーク論に向けて／墓から見えるもの—一格差の不在／砂丘が先か、文明が先か／インダス文明は大河文明ではなかった—農業と水害の視点／古代文明観を見直す—「穀物倉」と「アーリア人侵入説」／文明の衰退について考える／ゆるやかなネットワークの存在／都市社会をどう見るか—中央集権的文明観からの解放

第二章 新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市(杉山三郎)

閉ざされた空間の多様性／文明の萌芽／認知能力＝知恵こそが、文明の基盤をなす／中規模都市ができて始める／完全計画都市、テオティワカン／多くの人を迎える巡礼地として／暦と数の体系／「太陽のピラミッド」と「月のピラミッド」の二元性／墓は語る／古代人の交流—物を集めるネットワーク／文明の確立から崩壊へ—伝わり、つながる文明の諸要素

第三章 水都ヴェネツィア：交易都市から文化都市へ(陣内秀信)

水と共生する町、ヴェネツィア／逆・中央集権的構造都市—複雑に交差する水と陸のネットワーク／都市を解読する／交易都市から文化都市へ／オリエント志向と柔軟性／分散的都市から統合的都市へ／なぜ都市に人が集まるか／城壁の無い町／都市モデル再考／川が結ぶネットワーク／水車の活用／考古学調査がヴェネツィアのイメージを変える／ヴェネツィアの食と産物のネットワーク／ラグーナは自然・環境・歴史の宝庫—文化都市から環境都市へ

韋編三絶

——読書と本づくりの過去と未来

荒俣宏

荒俣宏先生は、一九四七年、東京生まれ。作家、博物学者。慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活のち独立。百科事典の編集助手をしながら書いた小説『帝都物語』（角川書店）がベストセラーになり、日本SF大賞受賞。『世界大博物図鑑』（平凡社）で、サントリー学芸賞受賞。さまざまな分野にわたり執筆活動をおこない、その著訳書は三〇〇冊を超える。元玉川大学客員教授・武蔵野美術大学客員教授。

大学出版部協会編集部会では毎年秋に研修会を開催し、加盟出版部の本づくり、編集技術の研究を積んでいる。二〇一五年は十一月六日に「図鑑」をテーマに開催し、荒俣先生にご講演いただいた。「図鑑」だけでなく、「本」や「読書」に関する著書も多数ある荒俣先生の講演を抄録する。

構成・玉川大学出版部・森貴志

こんにちは。荒俣宏と申します。

私は二〇一五年、東海大学出版部から『日本まんが』全三巻を出版いたしました。これは十社ぐらゐの出版社からけんもほろろに断られた、三重苦を抱えた本だったんです。まず、十四名との対談集だということ。二重苦めは、原稿量がざっと計算しても二、〇〇〇枚以上あること。そして三重苦め、書くほうには一銭にもならなかったこと。いろいろもつてまわったのですが、とにかくダメで、私が柩に入るときにいっしょに燃やしてくれと思っただぐらゐの本で

した。

そこへ信じられない、セレンディピティが起きたのです。私は子どものころからナチュラルヒストリーの本が好きで、集めたり読んだりしてきました。特に海洋のものについては関心を持ち、海には六〇年近く通って観察を続けていました。東海大学出版部が出す本はいつも高いなと思いつながら買っていました。なんとそこが出してくれることになったのです。

さて、そんな縁で、今日は売れない本をつくっているみ

なさんに向けてお話しをいたします。

博物誌に携わる

私は小さいころから本ばかりの生活を過ごしてきたので、自分の人生は七歳にして終わったと思っていました。楽しく恋を語ることはないであろうし、大金をもらってよい地位に就くことも、ましてや幸せな家庭生活などはほど遠いのだと覚悟していました。

そううえ、私は本は本でも印刷本が好きなんです。手書きの本が大好きなんです。その類いの本は集めるのもつくるのも、経済的な問題を考えると、立入禁止区域。そこに投資をするというのは、ゆるやかな自殺をしているようなものです。ここで覚悟をしたために、いまこうした仕事ができているのだらうと思いますけれども。

なんとかして本に関わりたいと大学を出て十年ほどサラリーマンとして勤めたあと、三年間は平凡社で『世界大百科』という百科事典の編集助手になりました。あまりに忙しく「助手にはタクシー代を出してやれないから、ここで寝ていいよ」といわれたのが運の尽き。それから毎晩、床の上に段ボールを敷いて寝て、起きて、仕事をずつとしておりました。朝、掃除にくるおばさんに「死体があるよ」といわれながら完成したのが『世界大博物図鑑』です。

理科系の出版社の方はよくおわかりでしょうけど、著者の先生から上がってくる原稿というのは、日本語じゃない

んです。一般の人々は理解ができないような言葉ですから「わかるように書いてください」とお願いしても、「学術用語だから」といつて妥協してくれません。そのやりとりで神経をすり減らされることも多くありました。

しかし、社長の息子さんをはじめ、まわりがほとんどナチュラリストであるという環境で、おもしろい仕事がありました。幸運なことに、師匠の紀田順一郎先生が、古本の歴史に精通しており、古本屋さんとツーカーの仲でありました。紀田先生について神田で動きまわったおかげで、さまざまなルートができました。江戸時代の手書き本を見せてもらえるようになったのは、ありがたかったですね。

私はいま死ぬまでに、水族館の歴史の本を書こうと思っているんです。十年間ぐらいやっているのですが、実在が証明されていないようなところが発行した、ちぎれた切符とか、ゴミのようなものから宝がどんどん出てくる。

たとえば江ノ島水族館を調べていて、どうやら昔は島の中にあつたことがわかったんです。ところが、地元のおばあちゃんたちに聞いても、島にあつたときの姿や形がわからない。せつかくなら発見したいとずつと思っていたところ、絵はがきを思いつきました。

絵はがきは、日露戦争で爆発的に売れるようになり、二〇世紀のはじめくらいまでにたくさん発行されていました。これを探せば何か出てくるのではないかと。それで、江ノ島の栈橋から島を見る角度の絵はがきをネットオーク

ションで片っ端から買いました。三〇〇枚ぐらいあるのを毎日虫眼鏡で見るとすよ。そしたらあるとき、水族館を発見いたしましたね。ちゃんと「水族館」と書いてありましたが開かれていたことも初めてわかったのです。

水族館といえば、最近古本屋から手に入れた、魚類を研究している人も知らない本をご紹介します。明治十六年に大蔵省印刷局がつくった魚の図鑑であります。印刷局では、お札をつくるために版画の技術を継承していく必要があるのですが、お札の新版つて減多につくれないんですよ。それでも技術を次世代に伝えていかなければなりませんから、いまの印刷局もボッティチェリの絵の復刻だとかをやっています。おそらくこの図鑑が、技術の継承のための初めての制作物だったのでしょう。

「お札をつくる技術で魚類図鑑をつくろうと広大なプロジェクトを考えた人がいたのですね。『一点一点漸次発行いたし、世人の閲覧に準ず』と書いてありますが、どうやら

一卷で終わってしまいました。

印刷局にしては偉いと思うのは、明治十六年段階での名前と、どこに生息しているというのが一応書かれています。カタカナで表記しているところがすごいんですね。当時はカタカナが普通に使われていましたから、いまのように生物の名前はカタカナで書くというルールとは違うところから考えたのだらうと思うのですけれど。ちなみに、書名が哲学的ですばらしく、『波間の錦』といえます。

いま魚類図鑑はほとんどすばらしいものができています。その背景にこうした明治十六年の図鑑があったのだらうと思います。であるとすれば、もう一回こうした本の意味や恩恵を研究しなければいけないのではないかと。そう信じて、私は見つけると買っているのです。

『学生と読書』

話は変わりますが、昭和十年代の半ばごろ、戦時中に軍部ファシズムを批判して東京大学を追われた河合榮治郎と

外交証言録 アジア外交と 歴史認識

谷野作太郎

服部龍二・若月秀和・異亜美子 編
日本はアジアとどう向き合ってきたのか、河野談話、村山談話の作成に関わった元駐中大使の証言からアジア外交の舞台裏を描きだす。

A5判・本体6400円

小平邦彦が 拓いた数学

上野健爾

複素多様体論の研究で20世紀数学を牽引した日本人初のフィールズ賞受賞者、小平邦彦、その思考の軌跡を論文や著作をもとに再現する。

A5判・本体4500円

化学物質規制の 形成過程

—EU・ドイツ・日本の比較政策論—

安達亜紀

化学物質は生活の利便性を向上させる一方で、環境汚染を引き起こしてきた。EU、ドイツ、日本を比較し、その規制のあり方を考える。

A5判・本体8800円

世界史のなかの 台湾植民地支配

—台南長老教中学校からの視座—

駒込 武

台南長老教中学校の軌跡をたどることで、諸帝国内下の輻輳する暴力を明らかにし、日本による台湾植民地支配を世界的な脈絡で問い直す。

A5判・本体15,000円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

[定価は表示価格+税]

<http://www.iwanami.co.jp/>



荒俣宏氏（撮影：後藤光弥）

いう先生がいらっしゃいました。本によって若い人の教養や人格を高めようと、「学生叢書」というのをバンバン出版したのです。そのなかに読書ガイドといいますが、当時の読書家たち呼びかけてまとめた『学生と読書』という一冊がありまして、若者にたいへんよく読まれました。

あるときこれを古本屋で買って読んだところ、あまりに過激で驚きました。昭和十三年初版の本ですが、現代でいう、梅棹忠夫『知的生産の技術』や紀田順一郎『現代人の読書』などに匹敵する刺激的な実践書です。

この本を書いた人たちは、当時のさまざまな分野の最高水準の学者でしたが、大学図書館の館長がいきなり「クリエイティブなことをやるためには、図書館に行つてこんなものをいくら読んでもダメだ。そもそも、大学図書館では大事な本は教授たちがみなもつていて、公開されていない」などとおそろしいことを書いています。

ほかにも「本はただ読むと苦勞するだけだから、なるべくリラックスして読みなさい」とか「日本ではみんな電車に乗るといい振動があるものだから寝ているが、西洋の人たちは頭に血がくるように、みんな電車の中で本を読んでいる」なんていうのを、医師が書いています。ちよつと待てよ。電車で読書をしているのは日本人じゃないの？ と。もしかして、この本に書いてあったことを実践してきたから、いま日本人は電車で本を読んでいるのかもしれないと気づきましたね。

果ては、読書に向いた家相についての記述まであるんです。大学の先生がここまでいうのかと、感動して私の愛読書になりました。

また注目すべきは、当時の「読書の資料」という必読書のリストと「統計にあらはれた現代学生の読書傾向」という学生の読者傾向のリサーチです。一〇〇ページにわたってマルクス、エンゲルスからはじまって、落語本、講談本、それから洋書がリストアップされている。戦時中に洋書をどうやって手に入れるのかと思いましたが、全部書いてあるんです。

ちなみに、この『学生と読書』は戦後にも再版され、われわれが大学に入った昭和四十一年ごろも必読書とされていましたが、肝心のむちゃくちゃな部分が全部カットされておりました。

本を編む

さて、私は「韋編三絶」という言葉が大好きです。韋編

三絶とは「書物を綴じている紐がくり返し切れるほど、その書物を精読すること、勉強に身を入れること」などと説明されます。私の友人のさかなクンの『日本産魚類検索』（東海大学出版部）は、毎日開いているためボロボロなんです。この本が好きで好きでたまらないのだそうで、まさに韋編三絶の愛読書でしょう。

しかし、愛読書と説明するだけでは、この韋編三絶がもつ意味を捉えきれないと思います。

韋編三絶の故事は『史記』に出ていて、書物を読んだ人は孔子様でありまして、読んでいたのは『易経』だとあります。易さえ理解していればすべてがわかる。『易経』は百科事典のようなものですから、これをくり返し読んでいたなんて、やはり孔子は常人ではありませぬ。

『史記』の孔子の言葉を簡単に翻訳すると、「私は晩年になって易をやっているが、もつと早く勉強を始めていけば、易のすべてに精通できただろうに」と悔しがついていくのです。つまり、三絶で終わったのではなく「まだいく

「暗記する日本史」から「考える日本史」へ。高校教科書とはちがう新たな「日本史」との出会い。

大学でまなぶ日本の歴史

木村茂光・小山俊樹 1900円
戸部良一・深谷幸治編
最新の研究成果をふまえて平易に叙述した格好の通史テキスト！

あの戦争とは何だったのか？

アジア・太平洋戦争辞典

吉田 裕・森 武麿
伊香俊哉・高岡裕之編
あらためて戦争を問い直すための約2500項目を収録！
刊行記念特別価格25000円
(期限16年3月31日、以降27000円)

「昭和天皇実録」講義

生涯と時代を読み解く
古川隆久・森 暢平・茶谷誠一編
最も信頼の置ける“実録”ガイド。記述の要点を平易に解説。1800円

藤原実資が綴った日記を現代語訳化
甞る平安宮廷社会！ 倉本一宏編

現代語訳小右記

全16巻 刊行開始
■三代の蔵人頭（第1回）
貞元2年(977)3月～永延2年(988)12月
2800円 【内容案内】送呈

〈華族爵位〉 請願人名辞典

松田敏之著 士族・平民から華族への昇格を望み請願した人々の経歴・請願年・受理・不受理理由を解説。
15000円 【内容案内】送呈

鎌倉将軍・ 執権・連署列伝

日本史史料研究会監修・細川重男編
35人の人物そのものに焦点を絞り、行動や実績を解説。2500円

吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151/価格は税別

ぞ」と思っているのだけれど「もう寿命が近いので断念する。ほんとうはこの本の紐をもう一、二回バラバラにして読みたいよ」という意欲満々の言葉でした。

ここで重要なのは、読んでいた内容ではありません。こうやって、くり返し読まれる形式であった書物という装置です。

孔子が読んでいた書物は、二千数百年まえですから、いわゆる木簡を重ねた本です。韋編三絶の「韋」は、植物のヨシやアシを縫った綱・紐だったといわれています。これを編んで木簡の本をつくっていた。私はこれを見て、現代のデジタル処理のルーツがここにあるんじゃないかと思いました。組み換えることもできる。ここまで読んだから、読んでない部分を先にもつてこようということが、編むという作業で自由自在にできることがわかりました。

とすると、編集の「編む」という字には、テキストを自由自在にサーチしたり、あるいは組み換えたりできるという意味が含まれている感覚を抱いたのです。

それに対して、「綴じる」というのはシーケンシャルにする（順序立てる）ことなんです。綴じられると、ひとつの本が形としては完成しますが、やり直したり、細かいところを取り替えることがなかなかできなくなる。聖書のような、校正の必要がないようなものはそれでいいんでしようけれど、もしかしたらコデックス（冊子写本）にする過程が、木簡時代のような書物の自由度を殺してしまった

可能性もあるのではないかと感じました。

いま「編集する」というと、ソフト（内容）を編むことになっていますが、本来はソフトとハード両方を編むことなんです。本を印刷するときには、八ページ、十六ページをいっぺんにやりますね。うまく配置して折らないと、製本して裁断したときにシーケンシャルにならないわけです。これはつまり、木簡と同じ「編集」作業です。

切れた紐を結び直すということは、書物を「綴じる」「製本する」というハードの側面もあり、ソフトを「編む」とにも通じる作業です。編集者は、紙や製本を切り離して本を編集することはできませんし、同時に製本や印刷の担当者も単なるモノをつくらしているのではなく、知の遺産をいっしょにつくらしているのだと考えてほしいのです。

昭和の三大「茂雄」

数年まえ、三浦しをんさんの『舟を編む』という本が出ました。言葉の海を渡る舟に辞書を編んでいく人たちの話でしたが、これを手がかりに辞書の歴史を繙いていくと、昭和の本づくりの身を捧げた人の姿が思い浮かびます。

『広辞苑』は、いまは岩波書店から出ていますが、そもそもは、岡茂雄さんが立案した中型の国語辞典『辞苑』がもたなくなっていきます。ちなみに、岡茂雄は南方熊楠の本を初めて世に出した人です。ほかにも山岳関係や民俗学の本を出版しました。

岡は最初の『辞苑』は当時の大手の博文館から出したのですが、改訂版は出せないと断られまして、もうひとりの茂雄である岩波茂雄さんが『辞苑』を引き継いで『広辞苑』という形で出版させたのです。

お聞きのとおり、昭和の出版界で重要な人間は「茂雄」なのです。さらに、古本屋の弘文荘の反町茂雄さんを加えて、私は「昭和の三大茂雄」と呼んでいます。

反町茂雄は、それまで物置の陰に隠れていた日本の古い古典を再発見し、商売にした人です。もっとすごいのは、戦時中、人々の本が戦火で消失してはいけないと、日比谷図書館の館長といっしょに東京都から資金をひねり出し、学者たちの本を片っ端から買って八王子辺りまで疎開させたのです。四十万冊くらいの本を、中学生や高校生が大八車を押したのだそうですよ。

いまの出版業界の土台をつくったのは、この茂雄さんたちなのです。

出版業は誰かがやらなきゃいけない。その誰かはおそろ

く普通の人間の幸福を超越してがんばる人です。だから、おそろくみなさんは宇宙飛行士よりも偉いんじゃないかと思えますね。酸素もなく、締め上げられ、自分の保障もない環境のなかで、地球の次世代の目になるようなものを植え、育て、実験している。これは非常に重要なことだと私は思っています。

ウンベルト・エーコとジャン・クロード・カリエルは『もうすぐ絶滅するという紙の書物について』において、紙の本は絶滅しないといっています。なぜかというところ、紙の本は魔術性をずっと保持しているからだ。われわれが本に引き寄せられるのは、それが魔術であるからだ。別の言葉でいえば、モノだからなんです。紙の本は家財道具としては優秀とはいえませんが、情報庫の形としては究極です。

終身刑をいい渡すようですが、ここにいるみなさんには先人たちの思いを引き継いで、ぜひ一所懸命本をつくり続けてほしいと思います。

刑法と戦争

戦時治安法制のつくり方

内田博文 今は昭和3年？ふつうの人々の生活を変質させる準戦時体制に近い。刑法学者が治安法法制史と法理論を解説。¥4600

21世紀に読む「種の起原」

レズニック 世界を変えた本なのに、誰も読めずにいた。ダーウィン『種の起原』を再発見する本格読解本。垂水雄二訳 ¥4800

進化する遺伝子概念

ドゥーシュ 古代中世の遺伝・発生の考えから環境と相互作用する動的なフランス進化学のDNA親まで。佐藤直樹訳 ¥3800

日本の精神医学 この五〇年

松本雅彦 60年代の精神科病院の在り方から68年の精神医療改革運動、統合失調症の減少まで。洞察に満ちた貴重な証言。¥2800

にもかかわらず

1900-1930

ロース 近代建築移行期の巨匠の名著、初の全訳。「装飾と犯罪」「郷土芸術」ほか。鈴木了二・中谷礼仁監修 加藤淳訳 ¥4800

翼ある夜 ツェランとキーファー

関口裕昭 ユダヤ性とゲルマン性、相反するはずの二人の作品の深い関わりとは。創作の謎から戦争の記憶が浮上する。¥5800

哲学への権利 [全2巻]

デリダ なぜ哲学を学ぶのか。大学とは何か、「文系廃止」を予見する哲学教育論の集大成。西山・立花・馬場他訳 ①¥5600②¥7200



東京文京本郷 5丁目32-21 **みすず書房**

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)
http://www.msz.co.jp

中国市場と双方向の連携をめざして

——第二回北京国際図書展訪問記

黒田拓也

(大学出版部協会理事／東京大学出版会)

ここ数年、日本の出版社にとって、その重要性が増す中国の出版市場。われわれのような大学出版部ないしは学術専門書出版社にとっても同様である。

一昨年、トーハン海外事業部の方々のサポートにより、東京大学出版会の担当者が複数の中国の大学図書館を訪問し、和書販売の市場としての可能性を探ってきたが、昨年は、八月二六日から五日間にわたって開催された、第二回北京国際図書展に大学出版部協会より筆者も含め五名の代表団が参加して初めて本格的な出展を行い、版權交渉等の活動を推進した。

北京国際図書展には、過去十数年、トーハンに委託して書籍展示のみの出展を行ってきた。そういうかたちになっていたのは費用面からの問題が大きかったが、さりとて相当の出展料がかかる割には目立った反響を得ることもなく、やはり商品知識を持った者が直接説明する必要性を強く認識し、一年あいだをあけて、今回の出展となった。

事前に、タトル・モリ エイジェンシーのご助力を得て、複

数の現地出版社とのミーティングが設定されていたこともあり、初日と二日めの、いわゆるビジネス・デイの午後は、ほぼ三〇分刻みで商品説明や版權取引についての情報交換といった商談を精力的に行うことができた。また、ミーティングの約束はしていない「飛び込み」の訪問も多数あり、中国の出版社の版權担当者や一般読者の、日本の書籍に関する情報収集への熱意を強く実感した。

こうした取組みから見えてきた点を以下に整理してみたい。一つは、当然のことながら事前準備の重要性である。特に、中国側のその時点における関心の向き、トレンドをきちんと把握して展開する必要がある。

今回、出品した書籍は、これまでの書籍のみの出展時と同様に、各出版部に選書をお願いしたわけだが、傾向として、中国の歴史に関するものや、中国におけるさまざまな産業を分析したもの、広くアジアをあつかった研究書、そして日本文化を紹介するようなものなどがまとまるかたちとなった。しかしながら、ブースを訪れてきた出版社からの要望は、社会保障や福祉に関するものや、建築やデザインを扱ったもの、さらには上質な教養書といったものであった。中国社会の状況を勘案すると、どれも「なるほど」と感じるテーマばかりであり、われわれの出品傾向にはどこか先入観があったことを痛感した。

こうしたトレンドを正確に把握し、さらにそれをベースに対象となる書籍を選定しとりまとめ、中国語ないしは英語の内容紹介を付したカタログを準備していけば、日本語のできる版權

担当者だけでなく、ブースを訪れてくれる編集者や一般読者にもアピールでき、翻訳出版への可能性をさらに拡げることにつながると思う。

二つめは、書誌情報の提供についての努力である。一昨年の中国の大学図書館訪問でもわかったことだが、和書の書誌情報がほとんど伝わっていない。これは期間中に訪問した中国における輸入図書の大手販売会社・中国国際図書貿易集団有限公司の方々と懇談でも指摘され、かつ十分な情報提供を要望された。

情報が伝わらなければそもそも関心を持ってもらえないし、発注にもつながらない。トーハンなど取次会社の尽力で、大学出版部協会加盟出版部の書誌情報を中国に適宜送る取り組みを継続しているが、これらのいつそうの充実を図ってきたい。

滞在中に訪問した書店の話題を一つ。代表団メンバーで北京最大の書店・北京図書大厦（新華書店）を視察した。一万㎡以上ある店舗は北京市内に四つあるそうだが、ここはそのなかでも最大のもので、同店の在庫は約四〇万冊、法律・歴史・哲学といった分野や児童書が比較的売行き良好とのことだが、日本と同様に書籍の売上だけでは物足りず、書籍の分野・内容に近いきざまな関連商品が展開されており、例えば児童書のコーナー近くには学習机なども販売されていた。

中国ではネット書店での販売は伸びている分、一般の書店店頭での展開はかなり厳しい状況だが、ネット書店での販売は価格競争が激しく、どちらも安定的な市場といえるような環境

ではなさそうだった。

最後に訪れた北京大学出版社で、王明舟社長はじめ幹部の方々と懇談する機会を持った。同社の新刊は年間一七〇〇点ほどで、大学の教材が四割、専門書が三割、ほかは一般書などを展開している。教材制作には専門のプロデューサーがおかれていて、力を入れている様子。現にネット書店で教材の売上は伸びているようだ。専門書の初版部数は一〇〇〇部程度で、この点は日本の状況と大きな違いはない。やはり高度な学術書の市場はその程度が上限であることを再確認すると同時に、先の北京国際図書展で問い合わせのあった「上質な教養書」をいかに多くラインナップしていけるかが、大学と社会をつなぐ役割を果たす大学出版部共有の課題なのだと感じた。

短い期間中、ときには二つの班に分けて多くの予定をこなした北京滞在中であったが、いくつもの課題は明確になりつつも、当初意識した目的は最低限度達せられたといえる行程であった。幸い帰国後、これまでよりはるかに多い数の翻訳見本請求が複数の出版部に寄せられた。反省点として掲げた事前リサーチを十分に行い準備していけば、本年はさらなる成果が見込めると考えている。継続的に複数の人を派遣し、徐々に洗練されたノウハウを組織として身につけ、少しでも学術的成果の国際発信に貢献する一つのかたちをつくっていきたい。今回の出版は、試みとしてはささやかなものだったが、重要な一歩になったと考えている。

ソウルで日韓の本が出会う

——ソウル国際図書館展の韓国大学出版部ブース

後藤健介

(東京大学出版会)

ゲートをくぐると、会場の中央に、他のブースを圧して「韓国大学出版協会」と大書した電光看板が見える。そしてそのすぐ横には「日本大学出版部協会」の電光看板が、韓国のそれと全く同じ大きさで掲げられている。

ソウル・江南カンナムの国際展示場COEXコエックスで、昨年一〇月六日から三日間行われた「ソウル国際ブックフェア」の会場風景だ。なにも知らない人がみたら、日本と韓国の大学出版部協会が、合同で巨大なブースを出していると思うのではないだろうか。この光景を目にしたとき、そんな心配をちらつとしたあと一瞬

のちに、私は大きな感動にとらわれて動けなくなつた。

近寄ってみると、ブースの正面、ゲート側の四分の一弱に、私たち日本大学出版部協会の加盟各出版部が出展した書籍約二三〇点が陳列されている。残りは韓国の大学出版部の本だ。共同出展なのに日本側が狭い？——いや、本当はこのブース、本来は韓国大学出版協会だけのブースなのだが、今回、韓国側協会は、我々日本側協会の書籍を無償で陳列し、看板を作り、ポ

ップを立て、目録の冊子まで作成してくれたという、破格のゲスト対応をしてくれた姿なのだ。ゲストどころではない、まるで「もう一つの私たち」のような扱いだ。

話はその一年半前に遡る。日本と韓国の大学出版部協会は、三十余年にわたって毎年合同セミナーを行ってきた。二〇一五年は韓国で開催する番であり、「六月に開催するソウル国際図書館展と会期を同じにし、韓国ブースで日本側書籍を展示する」という提案が韓国側からなされ、日韓でその準備を行ってきた。その後MERSの流行で図書館展は一〇月に、日韓セミナーは一月にと別々に開催されることになったので、図書館展の様子を我々セミナー訪韓団は見る事ができなくなってしまったのだが、韓国側の方々がセミナーと同時に図書館展にも傾けている情熱のほどを知ると、いてもたってもいられず、私は、個人旅行なら上司の許可も要らないだろうと、有給をとり、溜めていたマイルを放出して駆けつけたのだった。

やはり来てよかったと感激したのが、冒頭の場面だ。大看板の下には、この間韓国大学出版協会側の国際担当としてこの日本側図書館展に骨折ってくれた崔相根チェサンゲンさん（大邱テグの啓明大学校出版部）の人懐っこい笑顔が見える。反響を尋ねると、韓国には日本語が読める読者も多く、今回の日本側の陳列用図書館を「売ってくれないのか」と食い下がる訪問者も多かったそうだ。



日本大学出版部の展示図書と崔相根さん（右）

韓国側の陳列図書を見ると、洗練されたブックデザインに改めて驚く。日韓と比べると、日本側の本が保守的に感じられる。出版傾向も多彩だ。専門書、大学生の教科書、一般の読者に歓迎されそうな薄くてポップな本、辞書辞典類……。この多様さは我々日本の大学出版部と同様なのだが、人口が日本の半

分以下、したがって出版市場も小さいなかでこの水準を維持するのは極めて大変なことであるのは容易く想像できる。

これらの素晴らしい本や、また、日韓セミナーにおける発表からもうかがえる通り、日本の大学出版部が韓国の同僚に学ぶべきことは多い。一方で、学術出版市場の絶対規模が小さい韓国にとって、自国では大きくは成立していない学問分野・専攻について、日本が先んじて高度な専門書や教科書を刊行していることは、羨望を禁じ得ないことのようなだ（昨今日本で「不要論」がささやかれている大学学部や専攻も、多く韓国が羨望する分野に含まれている。我が国の「国際競争力」に照らして再検討すべき問題ではないか）。

日本と韓国の大学出版部協会は、一九八〇年代より、日韓両国の政治的波乱がどんなに激しくとも、毎年確実に回を重ね、双方が双方に懐かしい顔を作ってきた。日本と韓国は同じ水準で、しかも相補う関係にあるという主張は、少なくとも大学出版の現場ではまったく賛同できる。

ソウル国際図書展のこの厚遇に改めて、二〇一六年の東京国際ブックフェアを皮切りに、日本大学出版部協会でも、韓国の大学出版部とその書籍を日本の読者に紹介する試みを始めたいと準備を始めている。何事もダイナミックな韓国に対してささやかではあっても、日本の本好きの方々に、「韓国の〇〇大学出版部って、面白いんだなあ」と思ってもらえるような工夫を、日本らしい綿密さでもって凝らしたいと思う。

未来の愛書家を育てる

——第一七回モスクワ国際ノン／フィクション図書館展

上村和馬

(慶應義塾大学出版会)

二〇一五年一月一三日、パリで同時多発テロが起きた。一日には、エジプト東部で起きたロシア機の墜落について、ロシア政府がISによるテロと断定し、シリア領内のISの軍事拠点への空爆を強化した。第一七回モスクワ国際ノン／フィクションブックフェアはそのような時期に開催された。

外国人は常時パスポート携帯を義務づけられ、会場入口にはセキュリティセンサーが設置され、ボディチェックや鞆の開封も求められた。会場内では時折シベリアン・ハスキーを連れた警官が巡回した。とはいえ、市民はいたって冷静だった。日本ブースのスタッフの一人、アンナさんにテロに対する不安はないのか訊くと、「テロリストに正義はない。彼らはいずれ滅びる運命です」とにこやかに言うので、途端に緊張がほぐれて、それ以来、テロへの不安は消えた。

滞在先ホテルの正面には、高さ一六五mのピョートル大帝記念碑が聳え、その下をモスクワ川が流れ、右手には救世主キリスト聖堂が、左手にはフェア会場、中央芸術家会館のある彫刻

公園が位置している。会期中、あちこちのレーニン像に挨拶し、川べりの絵画や画材店を眺め、移動図書館の本を眺め、カフェでお茶をし、バレエのシルエットに出会った。中央芸術家会館にはもちろん無数の本が溢れ、音楽が聴こえ、あちこちでなされる詩や小説の朗読に耳を傾けた。文字どおり、ロシアのあらゆる芸術が一同に会するような場である。

会場二階中央のイベントスペースでは、リュドミラ・ウリツカヤなどロシアの代表的な作家の講演が連日開催された。『霧につつまれたハリネズミ』などの作品で知られるユーリ・ノルシュテインも気軽にサインしてくれた。購入した本を両手いっぱい抱え、キャリアケースに詰め込んで、真剣に品定めをする愛書家の姿も多数見られた。二階は上述のイベントスペースのほか、参加各国のブース、ロシアの版元のブースが所狭しと並び、大人たちで賑わったが、三階はほとんどが絵本の版元で構成され、絵本作り教室など、子どもたちが本に触れあうためのイベントが連日開催されて、嬉々として絵本を手取る子どもや親御さんで溢れかえっていた。

日本ブース(国際交流基金と出版文化国際交流会の共催)は、二階中央イベントスペースに隣接し、会期中、老若男女を問わず幅広い世代の来訪者で活況を呈した。展示書目は、文藝や漫画・アニメ、絵本、日本文化、趣味、日本語学習帳を中心に全二五七書目が用意された。若者には、奈良美智の自選作品集、スタジオジブリの作品集や絵本、漫画の人氣が高く、中高年層には、日本文化、特にロシア語の『侍辞世の句』が人氣を集め

た。版權交渉については、ロシアの版元よりも、スイスやドイツの自信作の売り込みが多く、また宮崎駿氏の著作の版權状況についての問い合わせが複数あった。

また初日には、小説家の小野正嗣さんが「地方を描く文学」をテーマに講演された。小野さんの出身地、大分県蒲江町での幼少年期の本との出会い、言葉との豊かな関係の結び方から、やがて本を読むことの意味に話が及んだ。講演後、ロシアの熱心なファンとの活発な質疑応答がなされ、芥川賞受賞作『九年前の祈り』から方言の響きが特徴的な一節を小野さんが朗読し、拍手喝采のうちに会は終わった。

今回特に印象に残ったのは、モスクワ国際図書館展と東京国際ブックフェアとの位置づけの違いである。簡単にいえば、モスクワ図書館展は「本を愛する市民のためのお祭りの場」「未来の愛書家を育てる場」のように私には見えたが、東京国際ブックフェアは、近年、その広大なスペースの半分以上を電子書籍関連の最新技術の紹介ブースが占めており、市民のための場というより、出版業界の業界人による業界人のためのビジネスの場

と化しており、未来の読書人を育てようという意識はほとんど感じられない。愛書家が集まるコミュニティとしては、神保町ブックフェスなどが役割を代替しているともいえるが、ブックフェアのあり方について再考すべき時なのではないか、市場を衰退から成長に転換させるヒントがモスクワ国際図書館展にあるのではないかといったことに思いを巡らせた。

また、先述のように、滞在当初はテロへの不安が無いわけではなかったが、ロシアの方々との交流をとおして、本を介した草の根の民間交流、相互理解の促進がいかに大切か改めて学んだ。他者を知ろうとするなら、まず彼らについての本を読み、実際に会って、話して、自分の考えを伝えること。彼らの声に耳を傾けること。相手を知るために言葉を尽くすこと。そのような地道な交流をひたすら続けることでしか、世界はよくならないと改めて思った。国際ブックフェアにはそのような存在理由もあるのだと思いついた。そう遠くない将来に、イラクやシリアの地で、子どもたちのための国際ブックフェアが開催されることを願う。

新刊案内

概念的アプローチに基づく近代解釈学の成立史
桑原俊介著
菊判・五二〇頁・本体二二〇〇円

シユライアマハの解釈学

近代解釈学の成立史
シユライアマハの解釈学をその方法概念の歴史的系譜に即して分析し、八・九世紀の文献学、論理学、聖書学、美学からの系譜ディルタイ、ハイデガー、ガタマーの解釈学の源流がここに明らかになる。
日本シユリング協会研究奨励賞受賞。

昭和女子大学女性文化研究所編「研究叢書第十集」
A5判・二五〇頁・本体四六〇〇円
女性とキャリアデザイン
キャリアデザインを巡る意識と最新の政策動向から、女性の職業的自立に向けた包括的キャリア教育支援の課題を追う。

法政大学大原社会問題研究所・相田利雄編
A5判・二九〇頁・本体五八〇〇円
サステイナブルな地域と経済の構想
岡山県倉敷市を中心に
持続可能な地域における社会政策策定に向けて、繊維産業コンテナ再生可能エネルギー・介護と医療の事例研究。

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
<http://www.ochanomizushobo.co.jp/>

第三三回日本・韓国合同セミナー から見えてくるもの

笹岡五郎

(大学出版部協会事務局長／専修大学出版局)

合同セミナーの翌日は雨になった。白煙のような霞のたつ小雨のなかを、訪韓団一〇名のうち、発表を終えて前日のうちに帰国した大阪大学出版会の二名をのぞいて、八名がタクシーに分乗して仁川ネストホテルからソウル市内明洞^{ミョンドン}へ移動した。私が韓国で開かれた合同セミナーに参加するのはこれで七回目になるが、降雨はさほど記憶にない。荷物を置いた西鉄ソラリアホテルのフロントで傘を借りてから、教保文庫など、市内歩きに出かけた。

第三三回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーは、一月一日から一三日までの日程で、韓国・仁川ネストホテルおよび松島^{ソンドン}コンベンシアで開催された。本稿はその報告をするものだが、その前に今回のセミナーが今後もふくめた日韓セミナーの小史の中でどのように位置づけられるのか考えてみたい。

*

ここまでを振り返ってみて、日韓合同セミナーは一九八二年に第一回が、九六年まで一五回にわたって連続開催されてきた。翌九七年八月、長野県・諏訪レイクサイドホテルに中国代表団を迎えて、第一回日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナーが開かれ、これは二〇〇二年のソウルまで六回続いた。二〇〇三年は日本が開催当番国で年明けから札幌市を会場として準備を進めていたが、春さきに中国国内で「新型肺炎(SARS)」流行の報道があり、それは日を追って広がりを見せた。日本側はぎりぎりまで判断を待ったが、最後は中国の協会に「訪日中止」を要請するという苦渋の事態となった。このために二〇〇三年のセミナーは日韓二カ国だけの変則的開催になったのである。結果的にこれが中国側の態度を硬化させたため、〇四年九月には日本と韓国の協会代表が北京に赴き、旧に復する方法を話し合う「北京調整会議」が持たれた。なおも議論のくすぶる曲折をへて、〇五年韓国慶州で第九回三カ国セミナーとして復活し、それは〇八年の韓国光州セミナーまで続いた¹⁾。

〇九年は日本の開催予定だったが、国内で新型インフルエンザが流行したので順延となり、二〇一〇年の平城京遷都一三〇〇年までにぎわう奈良で三カ国セミナーを開催することにしたが、中国代表団はついに姿を現さなかった。その後は中国不在の三カ国セミナーが続き、そのつど日本と韓国の代表者のあいだで対応策協議の場が持たれた。二〇一四年には韓国の権元^{クウォン}淳会長が北京に行つて中国側関係者と接触したり、一五年八月は北京国際図書館展のために訪中した日本の黒田拓也理事長

藤原書店

現代中国のリベラリズム思潮

1920年代から2015年まで

石井知章編 中国よ、どこへ行く？
気鋭の研究者が全体像を捉えた
画期作。 跋・子安宣邦 5500円

知の不確実性

「史的社会科学」への誘い

I・ウォーラスティン 歴史の
重要性を強調する新しい社会科学
学論。 山下範久監訳 2800円

近代日中関係の旋回

「民族国家」の軛を超えて

王 柯 「革命支援」と「侵略」とい
う“分裂”した関与に至った日中関
係の矛盾の真因とは？ 3600円

古代の日本と 東アジアの新研究

上田正昭 古代から未来へ、ア
ジア世界と連動。“上田古代史”
の最新かつ最高の成果！ 3600円

まなざし

鶴見俊輔 自らの系譜(後藤新
平ら)、親しい友人(金時鐘、小
田実ら)についての珠玉の文章
群。 追悼出版 絶筆収録 2600円

「フランスかぶれ」の誕生

「明星」の時代 1900-1927

山田登世子 「フランス憧憬」が生
んだ日本近代文学の系譜を「明星」
をとりまく群像から描く。 2400円

文学の再生へ

野間宏から現代を読む

富岡幸一郎・紅野謙介編 黒井千
次、高村薫、高橋源一郎、古井由
吉他 野間宏生誕100周年 8200円

月刊 **機** B6変32頁 12月号 No.285
J・ル=ゴフ/方波見
康雄/長田暁二/由
井常彦/和田昭允/
小倉和夫/中村桂子/山崎陽子/
尾形明子/加藤晴久/川満信一 ほか
年間購読料2000円(送料込) ◎見本
誌・ブックガイド呈 ※表示価格税抜
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL 03-5272-0301
ホームページ <http://www.fujiwara-shoten.co.jp/>

ら五名が北京大学出版社の王明舟社長と会って懇談した。こうして得た情報もふまえて、今回のセミナー前日の「日韓代表者会議」で協議した結果、今後は中国を入れた三方国セミナーの開催を見合わせることで合意、とりあえずの終焉を確認したのである。こうして一二回にわたった三方国セミナーに一区切りがつけられ、今後はふたたび日韓二国によるセミナーに戻るこ
とになったのである。

*

今回のセミナーの統一主題は、韓国側から提起された「プラットフォームの時代」である。挨拶に立った韓国出版文化産業振興院(韓国の電子出版分野に多くを投資している)李載昊院長は、今後の電子出版市場および新しいプラットフォームの成長可能性に注目していると、期待感をにじませた。そのあと第一主題発表に立った高麗大学出版文化院院長尹錫勲氏は、「プラットフォームの時代と大学出版部」と題した報告の中で、二

〇年ほど前にあらわれた電子書籍(たとえばCD room)はまだ紙の本と対置して考察できたし、読書をしていて眠くなつた時に枕にできるかどうかという、そんな懐かしい話を紹介したあとで、この人間的な(つまりアナログの)時代の最後の欠片さえも押し潰そうとしている巨大資本のプラットフォームの存在が気にかかるとしている(2)。Adobe eBook Platformでは、eBookの製作と販売が一気に行われ、図書館、研究者、企業に向けるのと同じ声色で、出版社にも参加を呼びかけている。これでは出版社はここまで持ちえた知識流通のヘゲモニーを今後も保持できるとは思えず、プラットフォームがもつ技術的次元の要件が、「信頼」などの抽象概念を駆逐する恐れがあるというのだ。これを尹氏は「新自由主義時代」と表現し、たとえば大学出版部が普遍的な存在ではないフランスやドイツにおいては、大学経営者が自分のところの出版部を閉鎖する理由にするだろうという。それは日本や韓国でも、出版部を普遍的な存在と認定していない大学においては同様の結果を招くだろうというのである。二〇世紀まで出版社は知識を組織化する最終段階で

ありえたが、二一世紀にはその立場がかなり苦しくなるだろうとして、話を括った。

続いて、京都大学学術出版会鈴木哲也氏が、「プラットフォーム時代」の事業開発から見えるもの」と題して報告した。日本ではこの「プラットフォーム時代」という言葉がまだ一般的ではないとしつつも、情報流通やコミュニケーションの変革が進んでいけば、少なくとも学術コミュニケーションにかぎった場合、問題はないだろうかとまず疑義を呈する。たしかに電子化、オンライン化の利便性は認めるが、一方で暗黒面が存在することを警戒している。たとえば教員の講義を手書きでメモする学生に比べて、ノートパソコンやタブレットでメモする学生は概念的な問題についての理解や知識の定着度に問題があると言われており、オンライン化後の学術論文ではごくせいぜい専門分野内での引用しか行われなくなった現象を挙げている。「紙の教科書のほうが見やすい」「本のほうが勉強しやすい」「電子は書き込みにくい」という学生もまだ残っているのである。

鈴木氏は「プラットフォーム時代」の光と影を自覚した上で、マルチ・プラットフォームを使いこなした新しい形のコンテンツ開発の必要性を説いている。そして「紙の本」をコンセプトにして、①今後とも有効である、②限界がある、③電子的コンテンツだから出版が可能……などに仕分けして、②に分類される実験的取り組みの具体例を報告している。その一つが、*EDP* アプリ形式の『京大理学部 わくわく理学』であり、もう一つは、『西洋古典学事典 *in* *PC* アプリ版』である。その制作現場に

おけるさまざまな工夫や、紙版とバッテリーがない販売・宣伝方法などを紹介している。また、紙の本にQRコードを埋め込んで、動きのあるデジタルコンテンツをスマホやタブレットで閲覧できるようにした、都市建設史の本などについても説明があった。

韓国の第二主題は、延世大学校出版文化院金成守キム・ソンウ氏の「韓国大学出版部の動向と出版の成果」である。商業出版の経験も持ちの金氏は、まずそれとの比較から、より厳しい現実にある学術出版（大学出版）の動向・努力について報告し、合わせて電子出版の重要性を確認している。続いて国内の出版市況データを明らかにし、年平均二・五%の売上高減少や、電子出版市場の増加率が二五%であること、出版社や中小書店数の減少、中古書籍市場の伸長などにも言及する。総じて大学出版部業界の環境は「厳しい」の一語に尽きるようだ。初版一〇〇―二〇〇部の劣悪な学術出版市場では書籍の図書館購入が無視できないが、資料購入費は削られ、費用の多くは電子論文データベースにまわされているのが現実である。

大阪大学出版会の土橋由明氏と川上展代氏による主題発表は、ほぼ総論抜きの、成功事例にしぼった興味深い報告となった。「大阪大学「シヨセキカプロジェクト」概要」と題して、二〇一二年四月から始まった、同大の学生・教員・出版会が協力して本の企画・制作・販売までを手がけたプロジェクトの一部始終である。それが書籍として結実した『ドーナツを穴だけ残して食べる方法 越境する学問——穴からのぞく大学講義』



有斐閣 出版案内
(価格・送料別)
 東京・神田・神保町2/Tel.03-3265-6811

<http://www.yubikaku.co.jp/>

東アジア 近現代史

新版
 上原一慶・桐山昇
 高橋孝助・林哲著
 [有斐閣Sシリーズ] 2,600円

中国の歴史

東アジアの周縁から考える
 濱下武志・平勢隆郎編
 [有斐閣アルマ] 2,600円

新しい時代の 教職入門

改訂版
 秋田喜代美
 佐藤学編著
 [有斐閣アルマ] 1,900円
 具体的な教師の姿を通して教師の仕事の理念や基本的な概念をわかりやすく論じた教職課程「教師論」。

新しい時代の 図書館情報学

山本順一編
 [有斐閣アルマ] 1,800円
 図書館に関わる人や制度、図書館利用者に役立つ情報を解説。
 【司書課程の新カリキュラムに対応】

現代に生きる 博物館

君塚仁彦
 名児耶明編
 [有斐閣ブックス] 2,100円
 学芸員として必須の基礎理論や歴史、法制度から、仕事の実際までを解説。

◎図書目録送呈◎

は、テレビ・新聞など各種メディアにも取り上げられ、関連したイベントも多数行われた。そしてこれが学生の正規科目であった点が、アクティブラーニングの観点からも注目されるのである。本は増刷を重ねており、大学出版業界のユニークな成功例としても評価されている。

*

さてこれからは日韓の二国がしっかりと向き合って、実りのあるセミナーを構築していかねばならない。ここまでは何かしらの問題の共有があったように思われる日韓だが、今回の主題発表を聞いてみて、「電子出版」についての微妙な温度差を感じなかったとはいえない。また今後は台湾やシンガポール、中国の個別出版部のゲスト参加があるかもしれない。セミナーの「実質」をどうするのか。学術出版をとりまく環境を考えると、セミナーの準備さえ楽ではなく、両国で開催したあと、一年の充電期間をはさむかたちなども考えられよう。要は生命体

に息をあたえることである。私たちはどこのプラットフォームに立って、なにを待っていればいいのか。だが、立ちつくしてはならない。

(1) 日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナーの再出発については、二〇〇六年京都セミナーにおいて「実質的かつ具体的な交流」を旨として、三国で「協力調印書」が交わされた。詳しくは、小野利家(二〇〇六)「新しい協力関係の構築に向けて——第一〇〇回日・韓・中国大学出版部協会合同セミナーを終えて」『大学出版』六九号を参照。

(2) 本稿で紹介した合同セミナー主題報告は「第三三回韓国・日本大学出版部協会合同セミナー」(講演録)に負うところが大きい。詳細は同冊子を参照。

折りに触れて書きとめた私のデザインノートより



命の形 一形の命

Lives of Form | Form of Lives / No. 06

点・と・点

図と地で
形はできる
地とは
余白のこと
図形と同時に
地にも
美しさの
配慮が
必要である
山水画の余白には
無に有が存在する

点・と 線

線

と

線

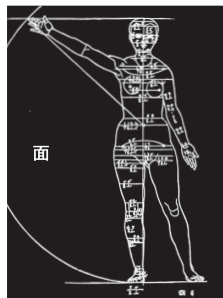
それぞれの動物は
それぞれ異なった
知覚の中で生きている
環世界



圖 と 地

人類の進化は、
自己の欲望を満たすためにあるのだろうか
理想の社会を築くためにあるのだろうか
それとも人類滅亡のために

点・と



数万種に分科している生物には、それぞれの形態に何らかの理由があった筈である。その形はその生物が生存する為に作り出されたもの。その形の不思議さと美しさに、神が創造したことを信じるしかない

世界を標準化させたいものとさせたくないものに分けてみる



キレイ

カッコイイ

カワイイと言え

誰もが半分納得してしまう

この言葉に的確な裏付けはない

現代の価値観

昔のデザインを懐かしむのも良い

但しそこから新しいものが

生まれてくるかが問題だ

私たちは現代に生きている

Anachronism

命の形 | 形の命 | No. 06

欲望の目線 無欲の目線 目線は心を語る

デザインは 目線の中 の存在	雑踏の中 の空ろな 目線	斜め目線 下から目 線 上から目 線	大人とは 違った風 景を見て いる	子ども目 線は 子ども目 線	大人目線 猫目線 鳥目線 大衆目線 政治家目 線 資本家目 線 労働者目 線	子ども目 線 大人目線 目線は心 を語る
----------------------	--------------------	--------------------------------	----------------------------	-------------------------	---	----------------------------------

人は過去を未来に伝える動物である

アイデアだけは

機械に任せる訳にはいかないと

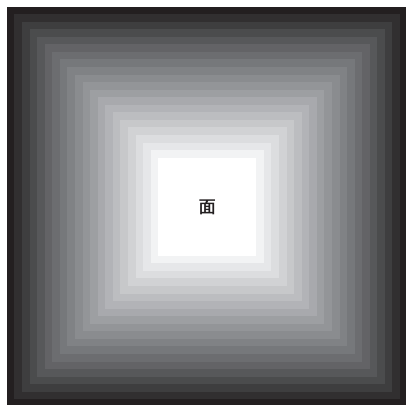
何時まで言えるのだろうか

その時、我々は何をするために生きているのだろうか

一切の情報を閉鎖すれば
時間は長く感ずるのか
短く感ずるのか
はじめの内は
はじめての内は
とても長く感ぜられるが
次第に極端に
短く感ずるようになる
と私は感じる？



と



大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

仁川で、第三回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーが開かれる

ソウル国際図書館展が、今年は一〇月七日から韓国総合貿易センター(COEX)Dホールで開催された。韓国大学出版部協会のブースでは特別にAJUPの本を多数展示してもらった上、洒落たブックカタログまで制作・配布していただいた。

その翌一月には仁川の松島コンベンシアで韓国デジタルブックフェアが開かれ、会場の一角にあるコンベンションルームで今年の日韓合同セミナーが行なわれたのである。まず韓国の高麗大学出版部伊錫勲氏が主題発表に立って、「プラットフォームの時代と大学出版部」と題して講演された。話は電子書籍が出現した二〇年ほど前に遡り、当時の電子書籍はまだ紙の本と対置して考えられたし、売上が落ちかけた出版業界の活性化剤になるのではないかとの期待感を抱かせたという。そのあと話のテーマは「プラットフォーム」に移り、プラットフォームの中では電子書籍の製作と販売が一気に行われ、永く出版社のものであった知識の加工と流通のヘゲモニーが吸収されかねないとして警戒している。かつて一身に期待をになった電子書籍の「その後」については、韓国のもう一人の発表者、延

世大学出版部金成守氏の「現在は学術出版分野の電子書籍への関心度はとても低い。紙の本に比べて、収益性が著しく低いためである」の言葉から分かるだろう。だが金氏もデジタルとの格闘を放棄するわけではなく、出版産業の「新たな生態系」づくりに取り組むべきだとしている。これに対して、日本の京都大学学術出版会鈴木哲也氏「プラットフォーム時代の事業開発から見えるもの」と、大阪大学出版部の「大阪大学「シヨセキカプロジェクト」概要」は、それぞれの実践例にのっとった分かりやすい発表であったような気がする。

二〇一五年度年末例会の開催

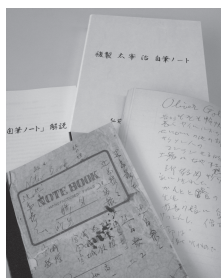
今年の協会の年末例会(第6回理事会、部会、年末懇親会)は港区六本木にある国際文化会館で行なわれた。理事会では冒頭、黒田拓也理事長から北京国際図書館展、日韓合同セミナー、図書館総合展、マイナンバー説明会など年度上期の主要活動について、代表理事職務報告があった。夕方の年末懇親会は八〇余の参会者を集めて、B1宴会場「樺山ルーム」で催された。年々ふえる賛助会員社はこれまでで最多の三五名にご参集いただき、夜陰に映える日本庭園を眺めながらの談笑は快く、記憶にのこるものになった。

北海道大学出版会

- ▼増山浩人著『カントの世界論―バウムガルテンとヒュームに対する応答』(A5判・二四六頁・五五〇〇円)「世界の統一」の問題を軸にして、「複合体」と「系列」の観点からカントの世界論と伝統的世界論との間の連続性と断絶を示す。
- ▼辻智子著『織維女性労働者の生活記録運動―一九五〇年代サークル運動と若者たちの自己形成』(A5判・五四頁・九〇〇〇円)紡績工場の若き工員たちによるガリ版刷りの文集や通信、日記等から、書くことで問題を対象化し、仲間語り合って解決していく実践を描く。
- ▼林田清明著『法と文学』の法理論』(A5判・四一四頁・五八〇〇円)法のテクスト性や物語性、社会文化的コンテクストに着目し、文学作品を自在に読み解く。前著『法と経済学』の法理論につづく、繊細にして強靱な批判的思考。
- ▼西出佳代著『ルクセンブルク語の音韻記述』(A5判・二七八頁・六八〇〇円)ドイツ語の一方言から言語へと昇格した話者数約四〇万人の少数言語の音韻体系を、音響音声学や歴史比較言語学の手法や理論を用いて記述する、本邦初の試み。

弘前大学出版会

- ▼弘前大学附属図書館編『太宰治自筆ノート複製セット』(A5変型判・英語一六八頁、修身二二八頁、解説八頁・函入・一二〇〇〇円)
- 太宰および太宰文学の原点を知る宝庫!―太宰研究者、太宰文学愛好家へ―太宰治は、一九二七年に弘前大学の前身である官立弘前高等学校に入学した。本資料は、そのときの「英語」と「修身」の自筆ノートを忠実に複製したものである。二冊のノートには実に多くの落書きがある。その大半は戯画化された肖像画と自己の署名などであるが、太宰治の筆致を如実に見ることができ、英語の授業への生徒達の不満や修身の授業への大正デモクラシーの影響なども読み取れ、当時の太宰をとりまく様子がいきいきと伝わってくる。



東北大学出版会

- ▼座小田豊編『自然観の変遷と人間の運命』(A5判・三〇四頁・二八〇〇円)自然は人間のいのちを育み涵養するものであるはずながら、時として人々を悲嘆の淵に追いやる災害を引き起こす。哲学・倫理学を中心に、自然と人間とのかかわりの根本を問う11本の論考集。
- ▼百々幸雄著『アイヌと縄文人の骨学的研究―骨と語り合った40年』(A5判・二八〇頁・三五〇〇円)解剖学・形質人類学からのアプローチで日本人のルーツを解明。「骨の人類学」からみた日本列島の人類史の復元を試みる。
- ▼池沢幹彦著『弓道教室講話』(四六判・二五二頁・二七〇〇円)弓道史・名人伝・禅との関わり等、奥深く多面性を持つ弓道の、広く豊かな世界への案内。
- ▼花輪公雄著『東北大学出版会ブックレット001 若き研究者の皆さんへ―青葉の杜からのメッセージ』(A5判・一〇四頁・九〇〇円)海洋物理学の専門家によるエッセー集。学ぶことの喜びや未来の新たな課題など、これからの時代の最前線を担う若き研究者たちへの提言を軽快な筆致でつづる。

流通経済大学出版会

▼百合本茂・片山直登・増田悦夫著『ロジスティックスの計画技法―ロジスティックスの分析・設計で用いられる手法』B5判・二二六頁・一五〇〇円) ロジスティックスを体系的に研究・教育を行っている機関は数えるほどしかない。その数少ない大学の一つである流通経済大学流通情報学部では、経済産業省の支援を受け、二〇〇八年度からロジスティックスに関する人材育成のためのカリキュラムづくりに取りかかり、「サプライチェーン・ロジスティックス人材育成プログラム」と名づけた教育体系を構築した。この体系に基づいたプログラムの一つに、学生や院生に向けたテキストづくりがある。本書はその第一弾として、『ロジスティックスの計画技法―ロジスティックスの分析・設計で用いられる手法』と題し、出版に至ったものである。本書では、ロジスティックスに関する諸問題の解決やロジスティックスシステムの分析や設計に用いられるオペレーションズリサーチ(OR)の様々な手法をやさしく解説し、また、応用事例なども示すことでロジスティックス人材育成に役立てようと配慮している。

聖学院大学出版会

▼和田雅史・齊藤理砂子著『健康科学ヘルスプロモーション』(A5判・二一六頁・二五〇〇円) これまでの健康教育が人を対象として、知識・態度・行動・ライフスタイルの変容を目的としているのに対し、「ヘルスプロモーション」は人を取り巻く環境への働きかけをも目標とする。健康に役立つさまざまな行動や生活状態を改善するための教育や、環境改善などへの支援も重要である。本書はこの理念に基づき、生涯にわたって必要とされる、健康科学の基礎知識をまとめている。

第1章 健康の概念/第2章 健康な発育・発達/第3章 健康と現代生活/第4章 精神の健康/第5章 現代社会の健康問題。喫煙・飲酒・薬物乱用問題、HIV感染、新型インフルエンザ等の感染症、ストレスへの対応について、また、有害化学物質による環境汚染問題について、認識強化と改善への実践を促している。



聖徳大学出版会

▼川並知子・広瀬知里共著『子どもと親のためのおりがみアイデア』(B5判・一二八頁・一五〇〇円) 幼児が無理なく折り紙遊びを楽しめる方法や、「折る」だけで、簡単に折り紙を三等分や五分分・六等分にできる技法も取り上げた。新たな折り紙の魅力に気づける一冊。



▼塩美佐枝・古川寿子・川並珠緒・関口明子・羽生和夫著『幼児理解と一人ひとりに応じた指導』(B5判・一一六頁・一五〇〇円) 幼児理解の意義から指導計画、実際の指導法、指導要録等の書き方に至るまで、幼児理解と指導について一冊でひととおり網羅できる。経験抱負な執筆陣による具体的な事例を用いた解説を多く盛り込んだ。

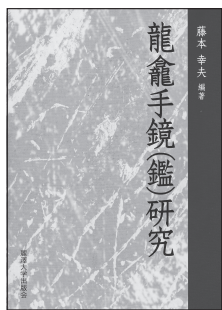


麗澤大学出版会

▼藤本幸夫(富山大学名誉教授)編著『龍龕手鏡(鑑)研究』(A5判・七二〇頁・七〇〇〇円)

遼知行均撰『龍龕手鏡』は九九七年に成った音義書であるが、異体字を多く含むため、専ら異体字字書として珍重されてきた。中国・朝鮮・日本の古典研究者にとっては、必須の工具書である。

本書は、論文三篇と影印部から成る。影印部は一九二九年京城帝国大学影印の高麗版『龍龕手鏡』巻一・三・四を底本とし、欠巻の巻二は南宋版で補った。この影印本はその後更に影印を重ねているが、鮮明でないものが多く、今回特にその点に留意した。論文三篇(編者と鄭光高麗大学校名誉教授が執筆)は本書に対する解説を加えるとともに、近年の研究成果をも紹介した。



慶應義塾大学出版会

▼井筒俊彦著『The Concept of Belief in Islamic Theology』(B5変形判・二八八頁・六四〇〇円) イスラーム神学でもっとも重要な「信仰」の概念を、関連するキータームの理論的分析から明らかにし、さらにそこからイスラームの本質構造を明示しようとした、井筒英文代表作。初版は一九六五年刊行。

▼若松英輔編『新版 小林秀雄 越知保夫全作品』(四六判・五六〇頁・三四〇〇円) 批評家・越知保夫(一九一一—一九一一年)の全作品集新版。日本における『カトリック文学』の世界を切り拓き、珠玉の名作を残して、遠藤周作らに影響を与えた越知の全作品を網羅。さらに新書簡編者による新解説、索引を収録。

▼サロモン・マルカ著/斎藤慶典・渡名喜庸哲・小手川正二郎訳『評伝レヴィナスと痕跡』(四六判・四三二頁・四二〇〇円) 哲学的生はいかにか形成されるのか。ユダヤ教の中に一つの哲学的洞察を認め、自らそれを生きた哲学者レヴィナス。レヴィナスを一つの結節点として、二〇世紀ヨーロッパ・ユダヤ精神史を描く、レヴィナス評伝の決定版。

産業能率大学出版部

▼鈴木映司・鈴木達哉・小林昭文著、アクトイブラーニング実践プロジェクト編著『アクトイブラーニング実践』(A5判・二五〇頁・二〇〇〇円) アクトイブラーニングの実践者向け実用書であり、特に多方面からの情報収集により実現した「全国の新進気鋭32名の授業レポート」、秀逸の実践的個人研究、振り返りに特化した考察などは類書の追隨を許さない内容。

▼欧陽非著『基礎からわかる経営管理』(A5判・三五〇頁・二四〇〇円) 経営管理の基本についてすべてを網羅しつつ、難解な表現を避け、身近な事例などで解説していく内容は、ビジネスパーソンはもちろんのこと、経営管理について大学などで学びながら、社会に出て忘れかけていたビジネスパーソンなどが熟読するのにふさわしい構成となっています。

▼松本久良著『基礎からわかる経営組織』(A5判・三五〇頁・二四〇〇円) 組織構造論と組織行動論(リーダーシップ論、コミュニケーション論)などについて幅広い理論が網羅的に解説した、経営組織論の基本書。

専修大学出版局

▼郭鋒著『戦前期日本の食品衛生問題』(A5判・二六四頁・三二〇〇円)明治期の食品衛生に関する法体系からの、戦後の「食品衛生法」が成立するまでの、日本の飲食物衛生取締状況を詳述する。日本茶や缶詰、洋菓子など個別食品にもふれて、その品質問題や安全面、衛生対策などを解説している。

▼角田洋子著『行基論―大乘仏教自覚史の試み』(A5判・二五〇頁・三二〇〇円)奈良時代の高僧・行基研究には膨大な先行研究があるが、いまだ追求の余地のある仏教思想の観点から、行基とその弟子等の思想に焦点を当てる。仏教活動を担った僧尼達を通して大乘仏教自覚史の萌芽期を明らかにする。

▼福島大我著『秦漢時代における皇帝と社会』(A5判・一八〇頁・二六〇〇円)中国古代の皇帝制度の形成について、主に地理的・空間的な支配・把握の様相とその変遷も含めて、皇帝と一般民との接点となる政策から、皇帝支配の正当性についての問題とその質的な転換を探ることを試みる。

大正大学出版会

▼大正大学地域構想研究所編『地域人』(A4判・平均一四四頁・八一五円・毎月十日発売)「現代社会の最優先課題は、地域創生にある」をテーマに、地域の実態理解と再生の方法論をさまざまな視覚から紹介する地域情報満載の総合情報誌。地域特集では、現地取材をもとに、物事を経済的視点だけから見るとはならず、多様な文化、歴史、暮らしに至るまでを掘り起すことを目指している。一方で、地域創生とは何かを豪華連載人による、人口、産業、食文化、リノベーション、ふるさとと信仰など、社会から心の問題まで幅広い提言を毎号掲載する。

第一号(九月創刊) 巻頭・石破茂(地方創生担当大臣)／地域特集―佐渡(新潟県)

第二号 巻頭・千住博(日本画家)／地域特集―延岡(宮崎県)

第三号 巻頭・清水慎一(観光地域づくりプラットフォーム推進機構会長)／地域特集―奄美(鹿児島県)

第四号 巻頭・水野誠一(政治家・実業家)／地域特集―豊島区(東京都)

玉川大学出版部

▼中井俊樹編著『シリーズ 大学の教授法 3 アクティブラーニング』(A5判・二二八頁・二四〇〇円)大学改革のキーワード「アクティブラーニング」。その定義から、授業での指針、具体的な活用方法までを紹介する。実践で陥りがちな課題や解決策も解説。巻末には授業で活用できるシートを付す。大学における教授法の知識と技能を体系的に提示する全六巻シリーズ、第一回配本。

▼福岡淳子著『司書と先生がつくる学校図書館』(A5判・三一二頁・二〇〇〇円)子どもに必要な学びの基礎力を育む学校図書館。著者の学校司書としての一五年間の体験から、一人ひとりにあわせて読書支援の方法と、学校司書のもつ多様な活動の可能性を具体的に説く。読み聞かせなどのお薦め本リスト付き。

▼川端有子・水間千恵・横川寿美子・吉本和弘著『映画になった児童文学』(A5判・二八〇頁・三三〇〇円)「不思議の国のアリス」「若草物語」などの原作と映画作品を社会的・歴史的文脈から考察。児童文学のメディアミックス研究に新たな可能性を示す。文献などの資料も満載。

中央大学出版部

▼古田裕清著『源流からたどる翻訳法令用語の来歴』（四六判・一六六頁・一五〇〇円）日本の法律用語を英訳する際の注意点を敷衍し、欧米的人間観と日本のそれとの違いを明確化。

▼土田哲夫編著『近現代東アジアの文化と政治』（A5判・三五四頁・四〇〇〇円）日・中・韓・台湾の研究者一〇名が近現代東アジアにおける文化交流と政治変容、国際関係等に関して行った国際共同研究の成果。

▼佐藤元英・服部龍二編著『日本外交のアーカイブズ学的研究Ⅱ』（A5判・三五二頁・四〇〇〇円）満州事変とその後処理、日タイ軍事協定問題、石油危機直前の田中角榮外交などの実証研究。

▼椎橋隆幸編『米国刑事判例の動向V合衆国最高裁判所判決「第8修正関係」―死刑』（A5判・五七六頁・六九〇〇円）米国憲法下での死刑に関する網羅的な重要判例解説。日本の死刑制度の考察に有益な比較法研究。

東京大学出版会

▼中村隆英著『明治大正史 上・下』（四六判・各四一六頁・三〇〇〇円）政治や経済だけでなく、思想や文化も加えた複合的な視点から激動の時代の変化を浮き彫りにする日本近代史。「もう一つの『坂の上の雲』（松本武彦氏、読売新聞11月8日）等、新聞各紙の書評欄で絶賛。

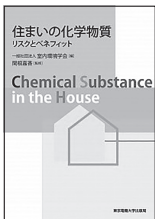
▼前田健太郎著『市民を雇わない国家―日本が公務員の少ない国へと至った道』（A5判・三二八頁・五八〇〇円）国際比較において日本は公務員数の少ない国であることを明らかにし、日本が先進国で最も小さな政府になった謎を解き明かす。第37回サントリー学芸賞（政治・経済部門）受賞。

▼彭浩著『近世日清通商関係史』（A5判・三二八頁・六〇〇〇円）徳川幕府・清朝双方の貿易政策を分析し、東シナ海域の国際秩序および東アジア国際関係の再構築を試みる。第58回日経・経済図書文化賞を受賞。

▼山極寿一著『ゴリラ 第2版』（四六判・二九二頁・二九〇〇円）ゴリラと人間の共存の道を求めて、40年にわたり続けられた著者によるゴリラ研究の集大成。

東京電機大学出版局

▼一般社団法人室内環境学会編、関根嘉香監修『住まいの化学物質 リスクとベネフィット』（A5判・二四四頁・三〇〇〇円）私たちの快適な暮らしは、何万種類もの化学物質によって支えられている。衣食住のあらゆる場面において、これらの化学物質の色々な性質を利用し、便利な生活を送っている。しかし、私たちの知らないうちに空気や食物から体内に摂取し、健康に悪影響を及ぼしている危険性もある。本書は、人の住まいにおけるライフステージ（建てる・暮らす・生きる・備える）において、ヒトの快・不快感に関わる影響について幅広く解説。日常生活や自然災害からの化学物質の発生源に加え、健康・建物被害とその対応方法、環境濃度とその測定法などを紹介。化学物質を負の要因としてとらえず、ベネフィット（利便性）とリスクを理解し、上手な付き合い方を考える。



法政大学出版局

- ▼江橋崇『かるた』（四六判・三五八頁・三五〇〇円）ポルトガルから伝来し、鎖国の間に独自の日本文化として発展した〈かるた文化〉の全体像を〈へいはかるた〉や〈百人一首〉から賭博用具まで膨大なコレクションを駆使して描き出す。
- ▼中村英樹『いきのびるアート 目と手がひらく人間の未来』（A5判・二六二頁・二九〇〇円）旧石器時代の洞窟壁画から現代の映像作品に至るまで、古今東西の名作の前で人の目はどのように動くのか。そして、それは何をもたらすのか。
- ▼O・ペゲラー編／寄川条路監訳『ヘーゲル講義録研究』（A5判・二八六頁・三〇〇〇円）従来恣意的に校訂されてきたヘーゲル講義録著作の生成過程を見直し、その再編集を追った論集。現在刊行中の全集の基礎であるとともに、今後の研究の土台をなす不可欠の資料である。
- ▼K・コリーノ／早坂七緒他訳『ムジル伝記3』（四六判・七九六頁・九八〇〇円）名著『特性のない男』刊行からその死まで、戦争と暴力にまみれた激動の時代を生きた作家の軌跡を描く最終巻。真正さを保つ精神の光がここにある。

武蔵野大学出版会

- ▼佐藤佳弘著『インターネットと人権侵害』（A5判・二〇八頁・二〇〇〇円）名誉毀損・侮辱・信用毀損・脅迫・さらし・ネットいじめ・児童ポルノ・ハラスメント・差別……。インターネットで起きている人権侵害について、数多くの実例をもとにその対処方法を解説。
- 
- ▼阿部和穂編『危険ドラッグ大全』（A5判・二五六頁・二四〇〇円（予価））危険ドラッグはなぜ生まれたのか？ 危険ドラッグは脳にどう作用するのか？ 危険ドラッグはなぜやめられないのか？ 薬学部の教授である薬の専門家が、危険ドラッグのすべてを、豊富な図版を使ってわかりやすく解説する。
- ▼五味政信著『五味版 学習者用ペトナム語辞典』（B6判・一一四四頁・八〇〇〇円）見出し語八〇〇〇、用例二一〇〇。語法、成句、コラムも充実し、文型が自然と身につくように構成されている。

武蔵野美術大学出版局

- ▼今井良朗著『ワークショップのはなしをしよう 芸術文化がつくる地域社会』（A5判・二四四頁・一七〇〇円）ワークショップを通して、生活に根づいた芸術文化の育成を実践してきた著者の一五年にわたる活動を一冊にまとめた。徳島県神山町での地域ぐるみの活動、北海道網走市の住民主体のデザイン講座、長野県安曇野松川村の、安曇野ちひろ美術館・地域住民・役所・大学が一体となった「地域の記憶を繋ぐ」活動、絵本「とんすけとこめたろう はじめての松川村」刊行まで、新鮮な試みと信念に満ちた本。
- ▼新見隆著『キュレターの極上芸術案内』（四六判・二五六頁・二〇〇〇円）大分県立美術館館長である著者が、ニューヨーク、パリ、ウィーン、アムステルダム……各地を飛び回って展覧会を準備する。さあ、何を見る？ 誰に会う？ 晩御飯は？ お土産も買わなくちゃ！ ほんとうは家で寝そべり、ショパンやシューベルトを聴いていたい。故郷尾道に想いを馳せ、住まいの武蔵野を散策しつつ（つくる）見る・聴く・読む・味わう。五感をめぐる旅、究極のガイドブック。

明星大学出版部

- ▼樋口修資著『最新 教育法の基礎』(A5判・四六四頁・二六〇〇円)。教育政策の法制・組織・財務に関する教育法規の体系を一五章に分けて詳述。各章に参照条文、コラム、巻末に「教育法規のキーワード六〇」を付した。
- ▼樋口修資著『最新 教育の行政・制度と学校の管理運営』(A5判・五一〇頁・二九〇〇円)
- ▼明星大学教職センター編『教員を目指す君たちに受けさせたい論文講座 教員の見方・考え方が変わる』(A5判・一六〇頁・一六〇〇円) 教員採用試験の論文文攻略技術及び方策を実戦的に示す指南書。
- ▼渡邊時夫・佐藤令子・粕谷恭子著『ここから始めよう 小学校英語―楽しい指導の第1歩』(B5判・一六四頁・一二〇〇円) 早期英語教育の研究、実践活動 英語教員養成の専門家三名による教育法・指導法入門。
- ▼阪井恵・有本真紀・木暮朋佳・中里南子著『五線譜の約束』(B5判・一二〇頁・一三〇〇円)

関東学院大学出版会

- ▼本田直志・田中綾一編著『今、私たちに差し迫る問題を考える』(B6判・二二四頁・一八〇〇円) 少子高齢化、グローバル化や市場開放による産業構造の変革、地域紛争や安全保障。これらは、直接間接に我々の生活に影響を及ぼすという意味で、「差し迫る問題」である。差し迫る問題は、社会人なら誰もが理解せねばならない。そこで本書では、社会保障や中央地方関係といった日本国内の問題と、日本の国際収支、TPPやEUを巡る課題に絞り、それらの問題を的確で分かりやすく解き明かす。
- 第1章 自治体における教育行政の課題と展望
- 第2章 高齢化する日本と社会保障
- 第3章 ウクライナ問題とEU
- 第4章 縮小する経常黒字と国際収支構造の変容
- 第5章 TPPの意義とわが国への影響



東海大学出版部

- ▼中島淳著『湿地帯中毒―身近な魚の自然史研究』(B6判・二七二頁・二〇〇〇円) フィールドの生物学シリーズ⑧ 身近な湿地帯のすばらしい生きものたちの世界。
- ▼高須賀圭三著『クモを利用する策士、クモヒメバチ―身近で起こる本当のエイリアンとプレデターの闘い』(B6判・三〇四頁・二〇〇〇円) フィールドの生物学シリーズ⑩ 天敵を獲物に選んだ寄生蜂がみせる巧みな行動戦略。



- ▼坂本洋典他編著『アリの社会―小さな虫の大きな知恵』(A5変型判・二八四頁・三二〇〇円) 足もとに広がるもう一つの巨大な社会、アリの世界を紹介。



名古屋大学出版会

▼山中由里子編『**驚異**』の文化史―中東とヨーロッパを中心に』（A5判・五二八頁・六三〇〇円）アレクサンドロスが征伐した伝説の巨人から女だけの島まで、たえず人々の心を魅了した〈驚異〉。その「黄金時代」以来の精神史を一望する。

▼塩田浩之著『**越境者の政治史―アジア太平洋における日本人の移民と植民**』（A5判・五二四頁・六三〇〇円）北海道・樺太へ、ハワイ・満洲・南北アメリカへ。日本人移民の政治統合がアジア太平洋地域の秩序にもたらしたインパクトを示し、新たな全体像を描き出す。

▼ピーター・ギャリソン著／松浦俊輔訳『**インシュタインの時計ポアンカレの地図―鑄造される時間**』（A5判・三三〇頁・五四〇〇円）時代の焦点で発火した思考。孤高の天才とはほど遠い二人の立役者の活躍を浮き彫りにした傑作。

▼上山あゆみ著『**統語意味論**』（B5判・三〇二頁・五四〇〇円）意味と構造は同時に決まる！両者が一体として産出されるシステムを、日本語を例に初めて体系的に記述。日常言語と計算可能性をつなぐ新たな地平を拓く。

三重大学出版会

▼三和元著『**日本のアルミニウム産業―アルミニウム製錬業の興隆と衰退**』（A5判・三〇〇頁・四五〇〇円、二〇一六年一月刊）一九七〇年代に世界第三位まで発展した日本アルミニウム製錬業が、わずか十年余の期間で衰退した激変の歴史を、産業史、経営史、産業政策史の観点から明らかにする。

■第1章 アルミニウム産業概論／■第2章 日本におけるアルミニウム産業の展開／■第3章 日本アルミニウム製錬業の衰退／■第4章 アルミニウム産業政策の評価／■第5章 アルミニウム産業―国際分業体制―■終章 アルミニウム産業の将来展望

▼第13回日本修士論文賞、表彰式十二月二十三日午後一時〜三時。第14回日本修士論文賞、募集開始

第14回日本修士論文賞募集	
●募集期間	2015年11月1日（土）～11月30日（日）
●募集対象	修士課程1年次～2年次修業中の学生
●募集論文	修士課程1年次～2年次修業中の学生が、修士課程1年次～2年次修業中に作成した論文
●募集論文の長さ	4000字～10000字
●募集論文のジャンル	人文系、理工系、農学系、医学系、法学系、経済学系、教育学系、社会学系、芸術学系
●募集論文のテーマ	修士課程1年次～2年次修業中の学生が、修士課程1年次～2年次修業中に作成した論文
●募集論文の提出先	三重大学 文学部 庶務課
●募集論文の提出方法	紙質の良い用紙に、表紙に「第14回日本修士論文賞」として、表裏に「募集要項」を添付し、封筒に入れて提出する。
●募集論文の提出期間	2015年11月30日（日）正午まで
●募集論文の提出場所	三重大学 文学部 庶務課
●募集論文の提出時間	2015年11月1日（土）～11月30日（日）
●募集論文の提出曜日	平日
●募集論文の提出時間	午前9時～午後5時
●募集論文の提出曜日	平日
●募集論文の提出時間	午前9時～午後5時

募集要項

賞名	賞額	定価
第7回 安藤海子賞『反核都市の鐘聲』	A5判 191頁	定価2100円
第7回 藤 方純雄『官制編年考』後の環状外交』	A5判 287頁	定価2100円
第5回 石橋松人『戦後日本の発展と大衆消費』	A5判 273頁	定価2100円

京都大学学術出版会

▼小暮智一著『**現代天文学史―天体物理学の源流と開拓者たち**』（A5判・六四二頁・四九〇〇円）古典天文学から天体の物理的構造を探る天体物理学へ、その転換期を担った人々は、いずれも学界に縁のないアマチュア天文家だった。十八世紀末に生まれた三つの流れを軸に、現代天文学の歴史をたどる。

▼ジョン・G・ゲイジャー編、志内一興訳『**古代世界の呪詛板と呪縛呪文**』（A5判・四八八頁・五四〇〇円）古代ギリシア・ローマ世界において、呪縛呪文は一二〇〇年にわたり間断なく続けられていた。一六〇〇以上にのぼる呪詛板の発見事例から、古代世界に生きた民衆の価値観やその生き様を見る。

▼朴美暎著『**韓国の「鬼」―ドッケビの視覚表象**』（A5判・二八八頁・二九〇〇円）目に見えないドッケビ（韓国の妖怪）が、植民地支配下で日本的な鬼のイメージを獲得したことから始まった、韓国人自らのドッケビ探しの旅を描く。戦後の論争を経て、国を代表するキャラクターになるまで、韓国社会の変遷を映し出すドッケビの視覚化の歴史。

大阪経済法科大学出版部

今回は売上良好書の紹介です。

▼豊下櫛彦、澤野義一、魏柏良編著『**北東アジアの平和構築―緊張緩和と信頼構築のロードマップ**』(A5判・三〇〇頁・二五〇〇円)

第一部 北東アジア情勢と平和構築の課題／第二部 平和と安全保障における自衛権論の検討／第三部 市民による平和と人権の推進

▼藤本和貴夫・宋 在穆 編『**21世紀の東アジア―平和・安定・共生**』(A5判・三二四頁・二五〇〇円)

第一部 平和と安全保障／第二部 持続可能な経済発展と環境保全／第三部 国際移住と共生社会

▼細田龍介、山田智貴共著『**環境と海洋―海から見直す地球環境**』(B5判・二〇〇頁・一八〇〇円) ①地球システムと海洋・海域／②海洋における物理現象／③海洋における生物と生態系／④海洋調査・探査／⑤海洋資源とその利活用／⑥海洋空間利用／⑦地球規模の環境問題／⑧沿岸域の環境問題／⑨人間生活・活動と沿岸陸域環境／⑩環境保全・改善／⑪環境認識、市民生活と環境意識

大阪大学出版会

▼中島和江訳『**レジリエント・ヘルスケア―複雑適応システムを制御する**』(A5判・三五〇頁・三五〇〇円) 医療安全向上のため、うまくいっていることに着目して先行的に対応するレジリエンス・エンジニアリングアプローチを医療に応用するための理論と手法を解説する。▼荏司育子著『**日本語の統語的原理―「収束」と「展開**』(A5判・二〇〇頁・四九〇〇円) 複数の言語形式は統語的機能を持つゆえに並立できる。言語を動的にとらえ、知的刺激に満ちた言語観が展開する。▼中村未来著『**戦国秦漢簡牘の思想的研究**』(A5判・三四二頁・五六〇〇円) 近年相次いで発見されている中国古代の出土文献を検討し、従来資料的制約により不明であった古代思想史の空白を埋め、その変遷過程を明らかにする。

▼松田准一著『**阪大リーブル51 隕石でわかる宇宙惑星科学**』(四六判・二三八頁・一六〇〇円) 宇宙のなりたちからロケットまで、隕石が運ぶ宇宙のひみつ満載! 現役の藝大生になった阪大名誉教授の著者が、ゆるかわいいイラストとともに解説。

関西大学出版部

▼池島正興著『**現代アメリカ国債管理政策史**』(A5判・三五〇〇円) 社会の高齢化に起因する、国債への需要変化が国債管理政策の展開を不可避とさせ、一九七〇年代以降、国債の主な役割が「営利企業のための国債」から「社会保障制度の一環としての国債」へ転換される、現代アメリカ社会の歴史を明らかにする。

▼下間頼一／緒方正則編著『**技術の文化史Ⅱ―匠の技と美**』(B5判・三三〇〇円) 広く世界を实地調査し、水道橋・缺らせん揚水機等水技術・たたらと日本刀・イスラム装飾タイルの起原を探求した。ケルト文化やヒッタイト文化の見聞、欧州最高峰モンブランの登頂、緑のアラビアを实地調査し、技術の発祥と発展を14人の著者が分担解明した。

▼土倉莞爾著『**現代日本の政治思考的考察**』(A5判・二八〇〇円) 本書は、現代日本の政治を一定の角度から論じたものである。主として、「政権交代」と「橋下旋風」等の現代日本の選挙政治を論じているが、ソーシャルキャピタル論と安保闘争期の清水幾太郎を中心に、ジャーナリズムと知識人についても論じた。

関西学院大学出版会

- ▼ジョージ・S・スカイラー著／廣瀬典生編訳・著『ジョージ・S・スカイラーの世界―人種概念の虚構性を見透かす小説』ノーモア黒人(ブラック)とジャーナル著作物の翻訳、およびスカイラーについての一考察』(A5判・六六二頁・七〇〇〇円)
- ▼河内厚郎著『阪神間近代文学論―柔らかな個人主義の系譜』(四六判・二〇二頁・一六〇〇円)
- ▼神田健次著『W・R・ランバスの使命と関西学院の鉱脈』(A5判・二五〇頁・二五〇〇円)
- ▼大迫正弘・砂原美佳・關谷武司著『プロジェクトとしての論文執筆―修士論文・博士論文の執筆計画』(A5判・一八四頁・一九〇〇円)
- ▼リスクデザイン研究センター・NPPO法人リスクデザイン研究所共編 KGRいぶれつと39『復興と居住地移動』(A5判・一一二頁・九〇〇円)
- ▼◎橋本峰雄賞受賞! 工藤保則著『カワイイ社会・学―成熟の先をデザインする』(四六判・一五六頁・一六〇〇円)

広島大学出版会

- ▼於保幸正・海堀正博・平山恭之著『地表の変化―風化・侵食・地形・土砂災害』(B5判・一一〇頁・二一〇〇円)
- 中国地方の地形や近年の土砂災害の特徴を俯瞰し、岩石の風化や侵食など地表で起こる身近な自然現象が、どのようにして地形の形成や災害と結びついているかを歴史的な観点を含めて解説する。日本で暮らす上で避けては通れない土砂災害に対して、日常生活の中であらかじめ何を考え、何ができるのか、災害に備える上で示唆に富む一冊。
- ▼木原成一郎著『体育授業の目標と評価』(A5判・二五五頁・一三〇〇円) 二〇〇一年の指導要録改訂で学習評価の制度として採用された「目標に準拠した評価」は、教師の指導と子どもの学びを振り返るために有効な情報を提供する役割を期待されている。本書は、教師が体育の授業を改善しようとする時に求められる体育の目標と評価とはどのようなものか、授業研究の成果に基づいて提案する。体育授業で「指導と評価の一体化」をめざす教師必読。

九州大学出版会

- ▼岩田隆太郎『木質昆虫学序説』(B5判・八〇〇〇円) 木質とかわかる様々な昆虫たちについて、その総体および興亡を一連の流れとして捉える。森林保護学、木材保存学、物質循環生態学などに散在していた知見を集約することにより、その生理・生態の理解新地平を拓く。
- ▼英知明・佐野隆弥・田中一隆・辻照彦編著『シェイクスピア時代の演劇世界―演劇研究とデジタルアーカイヴス』(A5判・四三〇〇円) デジタルアーカイヴスを利用し、作品の草稿と古版本・上演記録・公文書等を網羅的に検証し直すことによって、シェイクスピア・マローウ・リリーらが活躍した時代における作者・劇場・役者・印刷所・書物をめぐるドラマを新たな観点から捉え直す。
- ▼神原ゆうこ『デモクラシーという作法―スロヴァキア村落における体制転換後の民族誌』(A5判・四五〇〇円) スロヴァキア村落の人々の語りと実践を通して、市民社会を模索することの意義と価値を問う。ネオリベラリズムの時代における草の根の視点からの報告。第六回九州大学出版会・学術図書刊行助成対象作。

(株)朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2	TEL 03-5540-7749
亜細亜印刷(株)	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154	TEL 026-243-4858
(株)アベル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408	TEL 03-3235-1360
尼崎印刷(株)	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20	TEL 06-6494-1122
(株)A製紙	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階	TEL 03-5652-8627
王子製紙(株)	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5	TEL 03-3563-7072
岡本出版発送(株)	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2	TEL 048-471-6291
カクタス・コミュニケーションズ(株)	〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階	TEL 03-5542-1950
(株)加藤文社印刷所	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-15-6 K-STAGE	TEL 03-3261-8281
城島印刷(株)	〒101-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6	TEL 092-531-7102
(株)紀伊國屋書店	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10	TEL 03-6910-0510
(株)クイックス	〒456-0004 愛知県名古屋市中区熱田区桜田町19-20 名古屋本部	TEL 052-871-9190
(株)桑川印刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7	TEL 03-3943-9811
朝日コミュニケーションズ(株)	〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F	TEL 03-3525-8001
港北出版印刷(株)	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7	TEL 03-5466-2201
三松堂印刷(株)	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階	TEL 03-6823-5360
三美印刷(株)	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8	TEL 03-3803-3131
三立工芸(株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F	TEL 03-3261-5171
三和印刷(株)	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1	TEL 026-285-2300
信濃印刷(株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11	TEL 03-3237-3601
(株)渋谷文泉閣	〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7	TEL 026-244-7185
(株)真興社	〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町19-2	TEL 03-3462-1181
新日本印刷(株)	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342	TEL 03-3269-3611
(株)精興社	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9	TEL 03-3293-3021
創栄図書印刷(株)	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766	TEL 075-255-2288
大同印刷(株)	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20	TEL 0952-71-8550
ダイニック(株)	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル	TEL 03-5402-1811
(株)太平洋印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16	TEL 03-3474-2821
(株)太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1	TEL 058-324-2111
寶紙業(株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-7-14	TEL 03-3261-5335
(株)竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6	TEL 03-3292-3617
宗教法人天然寺	〒204-0021 東京都清瀬市元町1-4-5-711	TEL 0424-92-4359
(株)東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34	TEL 03-3291-1771
(株)とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-11	TEL 03-3571-6000
東光整版印刷(株)	〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15	TEL 03-3632-0801
図書一ヨウ企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7	TEL 075-411-8288
(株)トニー印刷(株)	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36	TEL 03-5843-9700
(株)日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F	TEL 03-3263-9431
(株)日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7	TEL 03-5255-2198
萩原印刷(株)	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12	TEL 03-3811-4272
(株)博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F	TEL 03-6441-6711
藤原印刷(株)	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5	TEL 03-3291-0191
(株)平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7	TEL 03-3944-0301
(株)堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5	TEL 048-422-0029
(株)毎日新聞社	〒100-8034 東京都千代田区一ツ橋1-1-1	TEL 03-3212-3340
誠製本(株)	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5	TEL 03-3967-3952
(株)遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31	TEL 06-6304-9325
(株)読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1	TEL 03-3242-1111
(株)ライトコミュニケーションズ	〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F	TEL 03-3251-7571
渡辺印刷(株)	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1	TEL 03-3718-2161

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介します。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2014年6月刊】

2013年6月から4回にわたり開催された大学出版部協会創立50周年記念連続シンポジウム「新しい社会を拓く大学の力」の成果より、2点をブックレット化しました。 日本生命財団学術書出版助成図書



座小田豊 ざこたゆたか（東北大学大学院文学研究科教授）
田中克 たなかまさる（京都大学名誉教授）
川崎一朗 かわさきいちろう（京都大学名誉教授）

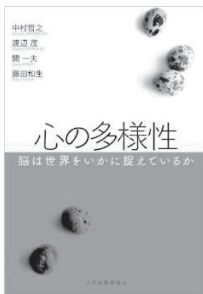
防災と復興の知 3・11以後を生きる

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003150-9

列島沿岸を巨大堤防で覆う？——これまで通りの高度技術をふりかざすだけで、はたして本当に強靱な社会をつくることができるのか。哲学・生態学・地震学による対話を通して、自然と社会を千年の単位で見直し、再生のための知のあり方を探る。

〈主要目次〉

第一章「ふるさと」の根源的な力と想像力の可能性（座小田豊）／第二章 森里海の連環から震災と防災を考える（田中克）／第三章 災害社会——本当に強い社会とは（川崎一朗）／終章「ふるさと」から「ふるさと」へ（座小田豊）



中村哲之 なかむらのりゆき（東洋学園大学人間科学部専任講師）
渡辺茂 わたなべしげる（慶應義塾大学名誉教授）
開一夫 ひらきかずお（東京大学大学院総合文化研究科教授）
藤田和生 ふじたかずお（京都大学大学院文学研究科教授）

心の多様性 脳は世界をいかに捉えているか

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003151-6

トリ、ヒト、それぞれが視る世界は同じものではない。赤ちゃんはいつごろから自分を自分と認識するのか。心の働きの多様性を比較認知科学・発達認知科学の視点からわかりやすく解き明かす。

〈主要目次〉

第一章 トリの「視る」世界——動物の錯視と心（中村哲之）／第二章 ヒト型脳とハト型脳（渡辺茂）／第三章 脳は世界をいかに捉えているか（開一夫）／第四章 討論——心の多様性と現代（藤田和生×中村哲之・渡辺茂・開一夫）／あとがき（藤田和生）

-筑波大学の知の発信-

筑波大学出版会

http://www.press.tsukuba.ac.jp/

3月10日【4刷出来】松倉 公憲 著
山崩れ・地すべりの力学
地形プロセス学入門
A5判 2500円+税
ISBN978-4-904074-40-7

DEA
フレックス総合評価法

社会システム分析
への適用

橋本 昭洋 著

A5判 2,900円+税
ISBN978-4-904074-34-3

【電子版発売予定】

大河内 信弘 編

ダイナミック
手術テキスト

肝臓編

次世代型3D
CG手術シミュレーションシステム

発売：丸善出版株式会社 TEL:03-3512-3256
http://pub.maruzen.co.jp/ FAX:03-3512-3270

カトリック教会論への招き

増田祐志(著)

みずからの使命を問い直してきた教会の歴史と共に、現代抱える課題や挑戦にも切り込んだカトリック教会論。

定価2000円+税

ポルトガル語圏世界への50のとびら

上智大学外国語学部ポルトガル語学科(編)定価2000円+税
ポルトガル語を話す国や地域に関する50のテーマから、今そして未来における「魅力」を語る。

アジアにおけるイエズス会大学の役割

高祖敏明/サリア・ガステイン(共編) 定価2500円+税
アジアのイエズス会5大学の研究者らが、カトリック教育の歴史的・社会的意義と将来の展望を探った、上智国際シンポジウムの内容を報告。

(発行) Sophia University Press 上智大学出版
http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/publication/SUP

(発売・注文) 〒136-8575東京都江東区新木場1-18-11
ぎょうせい TEL:0120-953-431 FAX:0120-953-495

東京学芸大学出版会

デジタル時代のメディア・リテラシー教育

——中高生の日常とメディアと授業の融合

ルネ・ホップス 著 森本洋介・和田正人 監訳

TV番組やインターネットなどアメリカで起こっている事例をもとに、リテラシーをどう教育するか具体的に解説しています。

B5判 208頁 2000円+税

「もじゃペー」に〈しつけ〉を学ぶ

——日常の「文明化」という悩みごと 山名淳 著

ドイツで150年以上にわたって愛されてきた絵本『もじゃもじゃペーター』。物語の変化から、近代化としつけの関係を読み解く。

四六判 192頁 1200円+税

分子生物学者、小学校長になる!

——朝礼と学校だよりで伝えたかったこと

飯田秀利 著

身近な話題を用いながら、子どもたちに人間の本质や科学的に考えることの楽しさについて、わかりやすく語りかけています。

四六判 184頁 1200円+税

GIP

[TEL] 042-329-7797 [FAX] 042-329-7798
[HP] http://www.u-gakugei.ac.jp/upress

金沢医科大学出版局

発売 = 紀伊国屋書店 ☎03-3354-0131(代)

6日間で学ぶ 医学生・初期研修医のための呼吸器外科画像問題集

佐川 元保 編集

国家試験レベルの画像読影力を短期間で獲得できる構成となっている。「問題と解答・解説」形式を主とし、繰り返し学習することで成果をあげる。

A4判, 140頁, 定価: 本体 2,000円+税

解剖学者がみた

ミケランジェロ

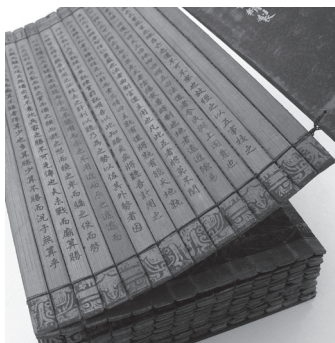
篠原 治道 著

奇酷な幼児体験で「傷ついた脳」が天才ミケランジェロを生み出した。人体構造のプロフェッショナルが彼の彫刻に秘められた真実に迫る。

A5判, 273頁, 定価: 本体 1,800円+税

金沢医科大学出版局

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
☎ 076-286-2211(代) http://www.kanazawa-med.ac.jp



表紙写真：竹筒本「孫子」(乾隆帝時代の訳本)
(カリフォルニア大学リバーサイド校所蔵)

撮影：vlasta2 (CC BY-NC-ND 2.0)
URL: <http://flickr.com/photos/bluefootedbooby/370458424/>

大学出版 105号 (2016年冬)
2016年2月25日発行
頒価 100円(〒共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail: mail@ajup-net.com
URL: <http://www.ajup-net.com/>

表紙デザイン：阿部卓也

※季刊「大学出版」は、大学出版部協会の
公式HPでも、PDF版を全文無料で
ダウンロードいただけます

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内

TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内

TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市府畑120

TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

■ 聖学院大学出版会

〒362-8585 上尾市戸崎1-1

TEL 048-725-9801 FAX 048-725-0324

■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550

TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

■ 麗澤大学出版会

〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1

TEL 04-7173-3320 FAX 04-7173-3154

■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30

TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

■ 産業能率大学出版部

〒158-8630 世田谷区等々力6-39-15

TEL 03-6432-2536 FAX 03-6432-2537

■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3

TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

■ 大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1

TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3038

■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1

TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29

TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局

〒101-0047 千代田区内神田1-14-8

TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3

法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20

武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7

TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1

TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜年金沢区六浦東1-50-1

TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

■ 東海大学出版部

〒259-1292 平塚市北金目4-1-1

TEL 0463-58-7820 FAX 0463-58-7833

■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1

名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋町1577

三重大学総合研究棟Ⅱ3階
TEL 059-232-1356 FAX 059-253-3095

■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69

京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

■ 大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10

TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7

大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-9592

■ 広島大学出版会

〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2

TEL 082-424-6226 FAX 082-424-6211

■ 九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34

九州大学産学官連携イノベーションプラザ
305
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

■ 東京農業大学出版会(休会)

〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1

TEL 03-5477-2666 FAX 03-5477-2747